

@MESSAG-MailStudio 簡易インストールガイド

このマニュアルは、UNIX 及び Mail サーバーのインストールの知識がある方を対象に簡易的に@MESSAGE-MailStudio のインストールができるようにしたマニュアルです。

▶ @MESSAGE を mail.3rsoft.com というメールサーバーにインストールしてウェブメールをサービスする方法を説明します。(他のサイトにインストールする場合はここで説明する方法を参考にして同じようにインストールして下さい)

▶ @MESSAGE と Outlook Express と Netscape Messenger を同時に使用するユーザーのための POP3 の設定方法を説明します。

@MESSAGE のインストール

- @MESSAGE を mail.3rsoft.com とのメールサーバーにインストールしてウェブメールサービスの方法を説明します。(他のサイトにインストールする場合はここで説明する方法を参考にして同じようにインストールして下さい。)
- @MESSAGE と Outlook Explorer や Netscape Messenger を同時に使うユーザーのための POP3 の設定を説明します。

[1] @MESSAGE の解凍

@MESSAGE をインストールするディレクトリーに次のように解凍して下さい。

tar.Z 及び tar.gz 形式

```
#uncompress atmessage*.tar.Z [Enter]
```

```
#tar xvf atmessage*.tar [Enter]
```

または次のように入力しても解凍できます。

```
#zcat atmessage*.tar.Z | tar xvf- [Enter]
```

RPM 形式

```
#rpm -ivh atmessage*.rpm [Enter]
```

解凍が終わると“ atmessage-5.0 ”というディレクトリーが作成され、そのディレクトリーの下に関連ディレクトリーとファイルが登録されます。

[2] @MESSAGE のインストール

@MESSAGE をインストールしたディレクトリーで setup ファイルを実行して下さい。setup プログラムの指示通りセットアップに必要な項目を入力し、右側に表示される推奨値を参考にすれば簡単にセットアップできます。セットアップを中止したい場合は推奨値に ‘ Q ’ と入力してください。

Linux の RPM バージョンは/home/atmessage-5.0 というディレクトリーへ自動的にインストールされていますので、そのディレクトリーに移動し setup をしてください。

注意：インストール画面はすべて Shift-JIS コードで行われます。(TeraTerm、telnet のご使用の場合はモードを変更してインストールしてください。)

```
./setup [Enter]
```

setup を実行すると、一番初めはどの言語で@MESSAGE をインストールするかを選択します。@MESSAGE は 2 ケ国語のいずれかを選択できます。日本語でセットアップするときは 1 番を選択して下さい。

```
Welcome to @MESSAGE Setup
```

```
Copyright(c) 2000, 3R Soft K. K. All right reserved.
```

```
[*] Select a language to use for setup
```

```
[1]-Japanese [2]-English [Q]-Quit
```

ドメイン名がセッティングされていないため、次のようにセッティングしてください。

例) domainname 3rsoft.com <= 3rsoft.com がドメイン名にセッティングされる

上記のようにメッセージが表示されるのは、domainname というシステム環境変数にドメイン名が設定されていないためです。特に Linux では Linux のインストール特性上、ドメイン名はホスト名側に FQDN として指定し、ドメイン名として指定されないためこのような問題が発生します。したがって、Linux の hostname にはホスト名だけを指定して、システム

起動時にドメイン名が指定されるよう /etc/rc.d/rc.local ファイルに現在のコンソールが指定されるようにして下さい。

ドメイン名が 3rsoft.com ならばシェル上で domainname コマンドを使い次のようにして下さい。

```
#domainname 3rsoft.com [Enter]
#./setup [Enter]
```

ドメイン名を指定して、もう一度セットアップして下さい。

[!] パスワードが shadow ファイルで管理されていないため将来的にセキュリティの問題が発生する可能性があります。なお、@MESSAGE は shadow でパスワードが管理されない
とインストールすることさえできません。

上記のようなメッセージは@MESSAGE の Linux 用の Package でのユーザーのパスワードを Shadow ファイルとして管理するためのもので、現在のユーザーのパスワードが Shadow ファイルではない場合には Shadow ファイルとして管理して下さい。

- (1) このサーバーでは現在、ウェブサーバーが動作しています。@MESSAGE をインストールして使用する為には、現在使用中のウェブサーバーを終了しなければなりません。
- (2) SMTP サーバーが正常に動作していないので@MESSAGE のインストール後、SMTP サーバーをインストールすれば@MESSAGE が正常に動作します。
- (3) POP3 サーバーが正常に動作していないので@MESSAGE のインストール後 POP3 サーバーをインストールすれば@MESSAGE と POP サービスを同時に受けることができます。

もし上記のような警告メッセージが表示された場合には、セットアップ後に次のようにして下さい。

- (1) Linux や他の Unix の場合、最近では基本的にウェブサーバーが搭載されています。このウェブサーバーが基本ポートの 80 番を通じサービスしていれば、別のポートを使ってサービスしていなければならず、サービスしていなくてデフォルトでポートだけ占有していればウェブサーバーを終了して@MESSAGE ウェブサーバーが基本ポートの 80 番を通じてサービスがされるようにしなければなりません。

@MESSAGE の中には@MESSAGE だけのための Apache ウェブサーバーが特別に提供されていて、一般的に公開されている Apache サーバーとは若干異なってコンパイルされています。これは Apache ウェブサーバーが Linux システムにある useradd と userdel を使用できるようにしたものです。

- (2) 基本的にメールサーバーに sendmail のような SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) サーバーがインストールされていてはじめて@MESSAGE がメールを送受信できるようになります。@MESSAGE が使用するデフォルト SMTP サーバーはローカル SMTP サーバーに合わせているために、ローカル SMTP サーバーが動作しなければユーザーが別の SMTP サーバーをインストールしなければならないので、慣れていないユーザーはメールを送ることができなくなる恐れがあります。

したがって、ローカル SMTP サーバーが動作しない場合には動作するようにして下さい。

- (3) POP3(Post Office Protocol)はサーバーにあるメールをパソコンのようなクライアントにメールを送るプロトコルです。@MESSAGE や Outlook Express のようなメールプログラムを使用したい場合は、POP3 サーバーがサーバーにインストールされていなければなりません。

[*] ライセンスキーを入力してください。(デモユーザー[Enter]) [Q] - 終了

[*] 必要なライセンス数を入力してください。 [Q] - 終了

ライセンスキーは@MESSAGE を正式版として動作させるために使用するキーです。このキーを使用しないでそのままエンターを押すと@MESSAGE はデモバージョンとして動作します。デモバージョンの場合、使用可能なユーザー数が 20 人で、運営者がユーザーに送るメールの署名が変更できないなど、機能上いくつかの制限があります。

ライセンスキーに関する問い合わせは 3R Soft の support-jp@3rsoft.com にメールを送るか電話(03-5330-8851)で問い合わせをして下さい。

[STEP 1]はサーバーのホスト名を入力して下さい。

```
[STEP 1] ホスト名を入力してください。      推奨値 ) mail
# mail _____
```

ホスト名はシェル上で `hostname` と入力して調べるか、`/etc/hosts` を参照して下さい。または、@MESSAGE のセットアップで推奨する値を入力して下さい。Linux の場合、セットアップ時ホスト名を FQDN (Full Qualified Domain Name) で決める場合がありますが、ドメイン名が含まれたホスト名を指定すると@MESSAGE が動作しません。必ず、ホスト名だけを指定して下さい。

[STEP 2]はサーバーのドメイン名を入力して下さい。

```
[STEP 2] ドメイン名を入力。      推奨値 ) 3rsoft.com      [Q] - 終了
# 3rsoft.com
```

ドメイン名はシェル上で `domainname` と入力して調べてください。Linux の場合 `domainname` が入力されず@MESSAGE のインストールが取り消される場合があります。この場合には再度 `./setup` を実行して下さい。

domainname ホストドメイン名 [Enter]

[STEP1]と[STEP2]では入力項目を参照してサーバーネームを作ります。例えば、ホスト名を `mail` にしてドメイン名を `3rsoft.com` で入力すれば、サーバーネームは `mail.3rsoft.com` になります。

[STEP 3]はこのメールアドレスに使用されるドメイン名を決めます。

```
[STEP 3] E-Mail アドレスに使われるサーバー名を入力。      推奨値 )
" userid@3rsoft.com " or " userid@mail.3rsoft.com " [Q] - 終了
# userid@3rsoft.com _____
```

1つのサーバーがいくつかのサーバーネームになることがあります。このような場合はSTEP 3でユーザーのメールアドレスから使用されるサーバーネームを指定して下さい。

[STEP 4]は@MESSAGE をインストールするディレクトリーを入力して下さい。

```
[STEP 4] @MESSAGE ルートディレクトリーを入力 (推奨値)  
/home/atmessage-5.0 [Q] - 終了  
# /home/atmessage-5.0 _____
```

現在のバージョンでは@MESSAGE を解凍するディレクトリーをインストールするディレクトリーに指定しなければなりません。例えば、ルートディレクトリーの下で

```
zcat atmessage*.tar.Z | tar xvf -
```

を実行すると、 /atmessage-5.0 が作られます。この場合@MESSAGE をインストールするディレクトリーは /atmessage-5.0 を必ず指定して下さい([Enter]キー入力)。

注意

他のディレクトリーを指定する場合には cp コマンドを使用して、@MESSAGE をあらかじめコピーして下さい。

LinuxのRPMバージョンは/home/atmessage-5.0というディレクトリーへ自動的にインストールされていますので、そのディレクトリーに移動し setup をしてください。

[STEP 5]は@MESSAGE をインストールしたサイトに接続した時に表示するデフォルトテンプレートを選択して下さい。

```
[STEP 5] ユーザーインターフェイスに使用されるデフォルトテンプレートを選択してください  
[Q] - 終了  
1) JPN1 2) JPN3 # 1
```

テンプレートはユーザーインターフェイスの選択用パッケージで、このテンプレートを使用してユーザーの好みに合うインターフェイスの選択ができます。テンプレートは各国の言語別にその言語に合うテンプレートが用意されています。日本語の場合、JPN で始まり、JPN の次に表われる数字はテンプレート番号です。3R Soft で用意している多様なテンプレートをインストールすれば、いつでもユーザーの好みに合うインターフェイスが使用できます。

[STEP 6]は@MESSAGE がウェブ上でサービスする基本ポートを指定して下さい。

[STEP 6] @MESSAGE のウェブサービスポート番号を入力して下さい。
 推奨値)80 [Q] - 終了
 # 80 _____

一般的にウェブサーバーが使用するウェブサービスポートは 80 番であり、このポートを通じてサービスするウェブページは、ユーザーが URL 上に特定のポートを指定しなくても接続できます。

もし自分が運営しているサーバーのウェブサービスが 80 番ポートを通じてサービスしていて、@MESSAGE も同じサーバーで運営したいならば、@MESSAGE をサービスするポートを別のポートに指定しなければなりません。ただし、@MESSAGE にある Apache サーバーの環境設定値をうまく設定できるならば@MESSAGE と既存ホームページを一つのウェブサーバーとしてサービスできます。

[STEP 7]は@MESSAGE の管理者のための管理用ウェブサービスポートを指定して下さい。

[STEP 7] @MESSAGE 管理者用のウェブサービスポート番号を入力して下さい。推奨値)
 8080 [Q] - 終了
 # 8080

この管理者用サーバーは管理者 ID(sysop)だけが使用でき、このサーバーを利用してユーザー管理とユーザー別のオプション設定ができます。

[STEP 8]は@MESSAGE のシステム管理者の ID を指定して下さい。

[STEP 8]システム管理者の ID を入力してください。推奨値)sysop or admin [Q]-終了
 # sysop_____

ここで指定するのは管理者用の ID で、この ID を持ったシステム管理者がユーザーの管理とユーザー別のオプションの設定など、@MESSAGE 全般の管理ができます。

[Final] 最後は管理者 ID(sysop)のパスワードを入力してください。

[FINAL] システム管理者(sysop)のパスワードを入力。 [Q] - 終了

New password : *****

Confirm new password : *****

@MESSAGE の管理者 ID は sysop(system operator)であり sysop は@MESSAGE のユーザー管理からテンプレート(ユーザーインターフェイス)管理、ディスク管理、ユーザーファンクションを制限する機能を実行できる ID です。

sysop ID で接続すれば sysop だけが使用できる管理者メニューが左側に現れ、そのメニューを使ってシステムを運営できます。インストールが終了するとログイン画面が表示されます。ID を sysop でパスワードはここで指定したパスワードを入力すれば@MESSAGE にログインできます。

注意

@MESSAGE は Unix にある passwd ファイルとお互いに連動しているシステムです。したがってアカウント作成時の passwd ファイルにユーザー ID とパスワードを保存します。sysop アカウントは Unix の root とほぼ同じ権限を持っています。アカウント作成時デフォルトで telnet と ftp の機能を制限しています。システムの重要な作業は sysop ID を使って行いますので sysop ID は厳重な管理が必要です。

< 参 考 >

RedHat Linux 6.0 以後では、OS のインストールのとき MD5 でパスワードを指定するのを default として提示しますのでユーザーは MD5 でパスワードを管理できるようになります。@MESSAGE では MD5 として暗号化されたパスワードをサポートしないためシステムのパスワードを連動させるとき必ず MD5 を disable させて、既存の登録済みのユーザーも MD5 でないパスワードに変更しなくてはなりません。

[3] @MESSAGE のスタート

@MESSAGE がインストールされているディレクトリーで start スクリプトを実行すれば、次のように@MESSAGE が実行されます。

```
/home/atmessage*#./start
```

```
Starting @MESSAGE Server...
```

[4] @MESSAGE に接続

インストールの設定例を前提として、Netscape や Internet Explorer で@MESSAGE に接続する場合は、各ブラウザの Location に次のように入力すればいいです。

```
http://mail.3rsoft.com
```

http://mail.3rsoft.com に接続すれば最初にログインページが画面に表示されます。管理者 ID を入力するフィールドには sysop、パスワードを入力するフィールドには管理者 ID を入力すれば@MESSAGE にログインできます。

@MESSAGE と POP3 との連動

@MESSAGE と Outlook Explorer や Netscape Messenger を同時に使うユーザーのための POP3 の設定を説明します。

[1] @MESSAGE のオプション・パック (OPTION PACK) を設置

1. @MESSAGE だけでユーザーを管理する場合

/home/atmessage-5.0/option_pack/にある 3 つのファイルを指定したディレクトリーにコピーします。

```
# cd /home/atmessage-5.0/option_pack
# cp msmailer /usr/bin
# cp mspop3d /usr/sbin
# cp mspassd ../
```

sendmail.cf より Mlocal の部分を次のように設定した後、sendmail を再実行します。

```
Mlocal,      P=/usr/bin/msmailer, F=lsDFMAu5:/|@qSPfhn9, S=10/30, R=20/40,
              T=DNS/RFC822/X-Unix,
              A=msmailer -d $u
```

* もし、メール用のアカウント (ID) を大小文字で区別して利用したいなら、F=lsDFMA5 の部分を F=lsDFMAu5 のようにしてください。

pop3 サーバーを設定する場合は /etc/inetd.conf と/etc/service に次のように追加しなけ

ればなりません。

/etc/inetd.conf

```
pop-3 stream tcp nowait root /usr/sbin/mspop3d mspop3d
```

/etc/service

```
pop-3      110/tcp # atmessage-5.0 Pop3 server
mspassd    106/tcp
```

2. システム PASSWORD と連動させる場合

システム PASSWORD と連動させる場合は MDA を普通 procmail を使用するので管理者メニューの環境設定で、管理するフォワード機能と、スプールサイズの調整、pop3 サーバーの調整等の設定はできなくなります。

この機能らを完全に利用した場合には、

- 1. @MESSAGE だけでユーザーを管理する場合にて設定したのと同じの方法で設定する。< 使用者の生成の時 >

- @MESSAGE を利用して使用者を生成します。

- Unix Shell 上での使用者の生成の時には

```
# mspassd -u userid -p userpassword
```

< 参 考 >

大量のユーザーを登録したい場合、上記の mspassd というコマンドを用いてスクリプトを作成することをお勧めします。例えば、100 人のアカウントを一々@MESSAGE のユーザー登録画面で登録するのは大変面倒な作業です。それに、コンソールベースで一々コマンド入力することも大変です。

その場合には、次の方法で解決可能でしょう。

```
#vi auto_adduser
mspassd -u test1 -p testtest (-u はユーザー名、-p はパスワード)
mspassd -u test2 -p testtest
mspassd -u test3 -p testtest
mspassd -u test4 -p testtest
mspassd -u test5 -p testtest
:wq!
#chmod 755 auto_adduser (実行可能なパーミッションにします)
#./auto_adduser
```